

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

ふるさとのために

福島大学附属中学校 3年 岡 ひかり

あなたの「ふるさと」はどこですか。

私のふるさとは生まれ育った福島です。幼いころ住んでいた埼玉です。祖父母の家のある場所もふるさともかもしれません。これらのどの地域も税金によって道路や公共施設が整備されていました。

私は社会人になったら税金を納めたいと思います。それは、道路の修繕やごみ処理をはじめとする公共事業の運営のため、だけではありません。私の納めたお金で自分以外の人にも恩恵を受けてもらい、恩返ししたい。例えば、地域の子どもの教育や福祉サービスに充ててもらいたいと思います。現在、私自身に収入はありませんが、社会人の納税によって十分な教育を受けることができます。学校はもちろん、私の通っていた学童保育施設も市からの補助金をもらっています。私もしっかり納税し、次の世代に十分な教育を受けてもらいたいと思います。

しかし、一つだけ心配なことがあります。それは私が大人になったとき、私の住む福島で私と同じような十分な教育ができていくかどうかです。大学を出て社会人になり自分自身の収入で納税をします。しかし、他県に住んでいたら福島に納税することができません。

現在、日本では都市部への人口集中が進行しています。つまり、納税する現役世代が都市部に集中するということです。地方では逆に人口が減少しています。それに比例して、納税する人、現役世代が減少し、税収もそれに伴い減少します。

私が社会人になって働く十年後、二十年後福島での税収は現在より減少しているでしょう。そうなってしまえば、現在と同じような十分な教育や福祉サービスを受けられるのでしょうか。

そこで、最近話題になっている『ふるさと納税制度』について調査しました。この

制度の本来の目的は、地域による税収の不均衡をなくすことにあります。つまり、自分の生まれ育った市町村等に所得税の一部を寄付という形で納税し、その市町村の教育や福祉サービスに直接援助するものです。これにより、市町村による教育や福祉サービスの大きな差をなくすことができます。私もこの素晴らしい制度を活用し、私の生まれ育った福島に寄付したいと思いました。どの地域に生まれ育っても教育や福祉サービス、公共事業に格差がないように、納税を通して応援していきたいと思いました。

返礼品ばかり話題になるふるさと納税ですが、本来の目的はここにあります。市町村も利用者もこの目的をもう一度理解し直すべきではないでしょうか。そして自分の「ふるさと」に納税することがこれからの社会を担う私たちに必要とされています。自分の意志を持ってこのサービスを活用する。そのためにこの素晴らしい制度を絶対になくしてはいけないと私は考えます。